

授業科目名	化粧品化学		科目コード	1501006	
開講クラス	美容昼間課程専門科	コース		学 年	1, 2年
担当教員	井ノ久保 優太				
	実務経験教員 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 ) 実務経験内容 美容師歴 8 年 平成 24 年 3 月 美容師免許取得 令和 3 年 6 月 化粧品化学教員資格取得				
開講時期	前期・後期・ <input checked="" type="checkbox"/> 通年・特別講義・その他		授業コマ数	60時間	
	必須・選択・選択必須		単位数	2単位	
使用 テキスト 1	書名	化粧品化学			
	著者	社団法人 日本理美容教育センター			
	出版社	同上			
使用 テキスト 2	書名				
	著者				
	出版社				
参考図書					
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験 ・ その他 ( )				
<p>&lt;授業の目的・目標&gt;</p> <p>理容師・美容師養成施設の生徒にとって、理容師・美容師法に準拠した「理容師・美容師養成施設の教科課程の基準」で化学は必修科目である。本授業では、美容技術の専門家としての基礎的・一般的知識の習得を目的としながら、美容業務において『化学・化粧品化学』が顧客の要望に応じるための多くの技術の基盤となっていることを十分に理解し、国家試験合格という志望達成を果たせるようにすることを目標とする。</p>					
<p>&lt;授業の概要・授業方針&gt;</p> <p>学生は、いろいろな過程を経て進学をしてきており、高等教育で化学を学んできている学生や、中学時の理科の学習以外は自然科学の分野に触れていない学生もいる。そこで基礎的事項をどこまで遡って教えるか問題となり、限られた時間の中で復習を取り入れ、重要事項にポイントを絞って、単元ごとに演習や小テストなど適宜行うことで定着を図る。授業では、時に視覚教材や簡単な実験を取り入れるようにしており、特に化粧品化学では実際に化粧品を使用し、実体験に基づいた学習を学ばせる。</p>					
<p>&lt;成績基準・評価基準&gt;</p> <p>年3回の定期テストの80点以上を『優』、70点以上を『良』、60点以上を『可』とし、それ以下の学生には追試試験を行う。</p>					

<使用問題集・注意事項>

特別に問題集は使用せず、自作の演習プリントや、まとめプリント、テスト対策プリントを随時配布している。また、国家試験直前には、過去の問題の出題部分を分野ごとにポイントのまとめと演習プリントを配布し、国家試験対策を行っている。

<授業時間外に必要な学修内容、関連科目、他>

・美容保健 ・美容技術理論 ・衛生管理

授業科目名	化粧品化学	
回	授業内容	備考
1	1章 化粧品概論 1. 化粧品の社会的意義と品質特性 1)化粧品の社会的意義, 2)化粧品の品質と必要条件 3)化粧品の種類と機能	
2	2. 化粧品の規制 1)化粧品の定義, 2)化粧品の製造販売の規制 3)化粧品の品質等の規制, 4)化粧品の表示・広告規制	
3～4	2章 化粧品用原料 1. 水性原料 1)水, 2)エタノール(1価の低級アルコール)	
5～6	2. 油性原料 1)油脂, 2)ロウ類, 3)炭化水素, 4)その他の油性原料 5)油性原料の機能	
7～8	3. 界面活性剤 1)界面活性剤の基本的性質, 2)界面活性剤の種類 3)界面活性剤の化粧品への応用	
9～10	4. 高分子化合物 1)高分子化合物の種類と特性 2)高分子化合物の化粧品への応用	
11～12	5. 色材 1)色材と化粧品, 2)無機顔料, 3)タール色素(有機合成色素) 4)光輝性顔料(パール顔料), 5)天然色素	
13～14	6. 香料 1)香料と化粧品, 2)香料の種類, 3)調合香料	
15～16	7. その他の配合成分 1)化粧品原料の品質保持に用いられる配合成分 2)化粧品に特殊な機能を与える配合成分	

17～18	3)その他の特殊成分	
19～20	3章 基礎化粧品 1. 皮膚清浄用化粧品 1)皮脂の汚れと清浄作用, 2)石けんの種類とその性質 3)その他の清浄剤	
21～22	2. 化粧水 1)化粧水の種類と機能性 3. クリーム・乳液 1)クリーム・乳液の皮膚への作用, 2)クリームの種類と機能 3) 乳液の種類と機能 4. その他の基礎化粧品 1)化粧液(美容エッセンス), 2)打粉類, 3)パック剤	
23～24	4章 メイクアップ用化粧品 1. メイクアップ用化粧品の種類と剤形 2. ベースメイクアップ化粧品 1)おしろい類, 2)ファンデーション類 3. ポイントメイクアップ化粧品 1)紅類, 2)アイメイクアップ化粧品, 3)美爪用化粧品(マニキュア製品)	
25～26	5章 頭皮・毛髪用化粧品 1. 頭皮や毛髪の形状 2. シャンプー剤 1)シャンプー剤, 2)ヘアリンス剤, 3)ヘアトリートメント剤 3. スタイリング剤 1)スタイリング剤の機能, 2)油性スタイリング剤 3)液状スタイリング剤, 4)高分子物質を基剤とするスタイリング剤	
27～28	4. パーマネントウェーブ用剤 1)パーマネントウェーブの原理 2)パーマネントウェーブ用剤の種類 3)パーマネントウェーブ用剤第一剤 4)パーマネントウェーブ用剤第二剤 5)コールドニ浴式パーマネントウェーブ用剤 6)パーマネントウェーブ用剤の使用上の注意	
29～31	5. 染毛剤 1)染毛剤の種類と染毛のメカニズム, 2)一時着色料 3)半永久染毛料, 4)永久染毛剤, 5)ヘアブリーチ剤 6)染毛剤の使用上の注意	

32～34	6. 育毛剤 1)脱毛の原因, 2)育毛剤の種類と機能, 3)育毛・養毛剤の原料	
35～36	6章 その他の化粧品 1. 芳香製品 1)香水, 2)オーデコロン, 3)その他の芳香製品 4)芳香製品の効用と使用上の注意	
37～38	2. 特殊化粧品 1)サンケア製品, 2)美白用化粧品, 3)制汗・防臭剤 4)ニキビ用化粧品, 5)除毛剤・脱色剤	
39～41	7章 化粧品の取り扱い 1. 化粧品の安全性と取り扱い上の注意 1)化粧品の安定性, 2)化粧品の経時変化 3)使用上, 取り扱い上の注意	
42～44	2. 化粧品の安全性と取り扱い 1)化粧品と安全性, 2)表示成分と安全性 3)化粧品によるトラブル	
45	化粧品化学を理解するための基礎化学	
46	1.物質の構造、構成	
47	2.溶解とコロイド	
48	3.イオンと水素イオン指数（PH）	
49	4.物質の変化と化学反応	
50	5.酸化・還元反応	
51～52	6.タンパク質	
53～54	2. 化粧品の安全性と取り扱い 1)化粧品と安全性, 2)表示成分と安全性 3)化粧品によるトラブル	
55～59	まとめ	
60	期末テスト	